第８５号　　平成３１年３月５日発行

こうれんふくい

もくじ

全国初！！
福井県から２館が「優秀館」に……1
第 29 回福井県公民館後期セミナー　……2・7
こうれんトピックス「第 40 回全国公民館研究集会」、
平成 31 年度事業予定　……3
第 68 回福井県公民館大会　……4～5
こうれんトピックス「第 30 回全公セミナー」……6
わがまちのイ・チ・オ・シ！「かりんて祭」……8

全国初!!

福井県から2館が「優秀館」に！！

第 71 回優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）において、福井県からは越前市岡本公民館と福井市清水西公民館が「優秀館」に選ばれました。2016 年度には福井市和田公民館、昨年度は鯖江市北中山公民館と、3 年連続で福井県の公民館が全国トップ 5 入りを果たしていますが、一つの都道府県から同時に 2 館が優秀館に選出されたのは、全国でも今回が初めてです。

越前市岡本公民館の事例発表

岡本公民館は高齢化が進む中、どの世代の住民も生き生きと学び、集い、お互いにつながっていくことを目指し、地域コミュニティの拠点として大きく貢献している公民館です。近年では「自分達の力で地域を盛り上げたい」という青年達のグループ「なう☆すたんど」の立ち上げに携わり、彼らが主体的な活動を行うことができるよう支援しています。地域の特別事業「おかもとイルミフェスタ」にも「なう☆すたんど」が参画することで様々な世代間の交流が生まれ、地域の一体化、活性化に大きな成果を挙げています。

福井市清水西公民館の事例発表

清水西公民館は、平成 18 年の市町村合併により誕生して 12 年目、里山地域に古くからある集落と昭和・平成に造成された団地が混在し、住民同士のつながりが希薄になりがちな条件を有する地区に位置しています。その中でも、住民一人ひとりが「ともに響きあうまちづくり」をすすめる拠点となることを基本方針とし、地域にある文化を再発見すること、地域課題を見据えた各種の学びを通じて参加者や住民のつながりを強化することなどを目指す教育事業を実施している公民館です。

両館とも、11 月 1 日～2 日に東京都の日本青年館において、第 40 回全国公民館研究集会（3 ページに関連記事）と同時開催で行われた「優良公民館・社会教育功労者・全公連合同表彰式」の席上で事例発表を行った後、表彰されました。誠におめでとうございました。

第29回福井県公民館後期セミナー報告

広報紙の作成について ～「きほんのき」～

平成30年12月7日(金)　福井県中小企業産業大学校

後期セミナーは、公民館の館報作成にあたって基本となる写真の撮り方と記事の作り方を学び、より伝わる、より見やすい、より良い広報を作るきっかけにしていただこうと『広報紙の作成について ～「きほんのき」～』と題して開催されました。当日は102名と多くの方が参加され、みなさんの広報に対する熱意が伝わってくるようでした。

▲講師　達川氏

◇写真の部◇

写真撮影は「トライ ドゥ カメラ」代表の達川要二氏を講師に迎え、写真撮影にあたってのデジタルカメラの操作の基礎をご講義いただきました。

達川氏の親しみやすい人柄もあってか、終始楽しい雰囲気で講義は進み、且つ内容の濃いものとなりました。その中から参加されていない方でも今から取り組めるポイントをご紹介いたします。

①記録媒体（SDカード等）は必ず毎回フォーマットをする！

普段デジカメで撮影する中で実践されている方は少ないと思います。保存先の記録媒体をフォーマットすることで、撮ったは良いが記録されていなかったというトラブルを防げるのです。

②後で補正（修正）することを前提に撮影する！

撮影したそのままを使えることが一番良いが、プロでも難しいとのこと。多少暗く写しても後で明るくすることは可能ですが、明るすぎる写真を暗く補正するのは難しいそうです。

③撮影には目的（目標）を持つ！

集団を撮る場合でも一人の主役を決めてそこに集中しましょう。余計な物が写らないようにするには、自分が動いて写真を撮影するのがオススメ。

④常にシャッターボタンは半押し！

カメラはシャッターボタンを半押しでピント合わせ、更に深く押すとシャッターを切る構造になっているため、常に半押しを利用してピントを合わせながらシャッターを切ることでタイミングを逃さず撮れ、押す動作が小さくなるので手ぶれもしにくくなります。

その他にも、ｉｓｏ感度やホワイトバランス、三分割法など様々なことをお教えいただきました。

公民館・コミセンに勤務されているみなさんは、広報や記録のためにデジカメ写真を撮る機会は大変多いと思います。機械まかせのフルオートでも良い写真は撮れますが、各種設定を自分で行うマニュアルモードで撮影してみましょう。イメージ通りの写真を撮ることができれば、文章だけで伝えるのが難しい事柄も、写真を通してより伝わるようになるかもしれません。ぜひ挑戦してみてください。

（7ページへ続く）

こうれんトピックス

全国公民館研究集会東京大会

第 40 回全国公民館研究集会は「公民館がひらく　日本の未来　～地域性・個別性を活かした新しい公民館活動を！～」をテーマに、平成 30 年 11 月 1 日～2 日、日本青年館にて開催され、全国各地から 1,420 名が集いました。福井県からは 36 名が参加しました。

1 日目は池上彰さんによる「民主主義と公民館運動」と題した特別講演や、全国の先進的な取り組みをされている方々とのネット中継を交えたシンポジウムがありました。2 日目は第 71 回優良公民館優秀館プレゼンテーション大会および合同表彰式が行われました。

この大会の詳しい内容については、『月刊公民館』1 月号～3 月号の特集記事をご覧下さい。

◀ 優良公民館優秀館の方々

永年勤続職員表彰を受賞された
越前市 久島主事(左)と
小浜市 吉田主事 ▶

●福井県からの参加状況●

市町名	福井市	小浜市	越前市	坂井市	美浜町	おおい町	県公連	計
参加者数	17	1	5	3	3	3	4	36

福井県公民館連合会　２０１９年度事業予定

(1) 福井県公民館連合会総会
期　日　2019 年 5 月 28 日(火)
会　場　福井県生活学習館

(2) 福井県公民館セミナー
［前期］期　日　2019 年 6 月 26 日(水)･27 日(木)
会　場　鯖江市
［後期］期　日　2019 年 12 月上旬
会　場　福井県生活学習館

(3) 公民館広報紙コンクールの実施
8 月下旬応募締め切り
9 月上旬審査会

(4) 第６９回福井県公民館大会
期　日　2019 年 10 月 9 日(水)
会　場　勝山市　教育会館

(5) 第４１回全国公民館研究集会・第５５回東海北陸公民館大会愛知大会
期　日　2019 年 10 月 17 日(木)･18 日(金)
会　場　愛知県　刈谷市
刈谷市総合文化センター、
刈谷市産業振興センター
参加費　3,000 円

ふるってご参加ください！

第 68 回福井県公民館大会

平成 30 年 11 月 13 日(火)　鯖江市　西陽会館

▲▼広報紙コンクール表彰

▶県公連表彰

▶鯖江市長　牧野百男氏

第68回福井県公民館大会は、鯖江市西陽会館において「学びの成果を活かした地域づくり」をテーマに、県内の公民館関係者が一堂に会し盛大に開催されました。開会式典においては、福井県公民館連合会表彰5名、広報紙コンクール表彰13館の表彰が行われました。

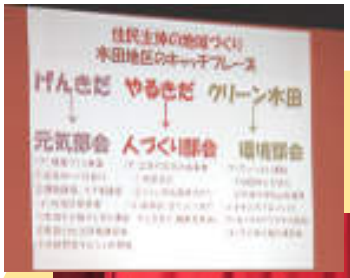
記念講演では、香川大学地域連携・生涯学習センター准教授　山本珠美先生をお迎えし、「地域を元気にする公民館の仕掛け～住民参画による地域の課題解決が活性化の鍵～」と題してご講演いただきました。

先生はまず、戦後まもなく寺中作雄が社会教育を確立したとき、既に、公民館は社会教育機関であると同時に地域社会の総合的な拠点として位置づけられていたこと、また住民の自発性に基づく運営が重視されていたことについて話されました。

時代が移り変わって高度成長期以降は、学習要求の多様化や地域の共同性の希薄化が急速に進み、民間のカルチャーセンターのような機能的に競合する施設が登場しました。それらを背景に、公民館の役割は何度か見直されてきたにもかかわらず、近年は公民館数が全国的に減少傾向にあります。

このような中で公民館は具体的にどのように取り組んでいくべきなのか、その例として、岡山県の様々な公民館の事例をご紹介くださいました。地域の課題は地域によって違いますが、住民が意見やアイデアを出し合い、自分達の力で解決していくことが重要です。公民館活動は、地域の大人も子どもも含め、住民の参画を促すことで地域の活性化に結びつけることができるのです。公民館の運営についても、住民の視点を反映させることの重要性を再認識する良い機会となりました。

▼講師　山本珠美先生



▲受賞者の皆様

▲平成 29 年度文部科学省
優良公民館事例発表

▶ 河和田狂言

午後からは、平成29年度文部科学省優良公民館被表彰館の福井市木田公民館と優秀館の鯖江市北中山公民館の事例発表が行われました。

木田公民館は、地域文化の学びが支えるまちづくり、住民主体の地域づくりについての発表でした。「木田ちそ、木田青かぶ、板垣大根」といった伝統野菜の栽培や調理の体験学習を通して、地域文化への理解や地区に対する誇りと愛着心を育む取り組みや、「げんきだ・やるきだ・グリーン木田」をスローガンに、元気部会・人づくり部会・環境部会の三つの部会が進める様々な活動を通して、人と人、人と地域を結ぶ〝絆〟づくりに取り組んでいるそうです。地区住民のまちづくりへの参画意識をさらに高め、今後も『住み続けたいまち「木田」』を目指していきたいと熱く語っておられました。

続いて北中山公民館から「社会教育による持続可能なまちづくり」について事例発表がありました。行政にすべて頼るのではなく、地域でできることは地域の皆で協力し合い、自分達のまちは自分達の手で盛り上げていくことをコンセプトに、アジサイの植栽運動による「美しいまちづくり」、福井豪雨災害を教訓にした「安全安心のまちづくり」、〝笑いの三笑〟を取り入れた「健康福祉のまちづくり」、地域を愛する心を醸成するふるさと学習「歴史文化のまちづくり」を展開、実施してきました。これからも「住み良く暮らしやすい北中山づくり」を目標に、持続可能なまちづくりを推進していかれるそうです。

いずれも地域の実情や特性を活かしたまちづくりに精力的に取り組まれている活動内容の発表でした。また事例発表の後は、山本珠美先生に再びご登壇いただいて意見交換会も行われました。会場の参加者からの質問にもお答えいただき、学び多き大会となりました。

◀ ▲意見交換会の様子

こうれんトピックス

全国公民館セミナーに参加して

平成31年1月30日(水)～2月1日(金)の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「第30回全国公民館セミナー」が開催されました。

「あたらしい『公民館』をさぐる。　ー人が集まる　あたらしい公民館のつくりかたー」をテーマに、全国でも先進的な取り組みを行っている公民館や、公民館的な活動を取り上げ、人が自然に集まる公民館にするための仕組みづくりについて考えるセミナーでした。なお今回も、福井市社北公民館の田中主事がトークセッションに出演されました。

以下に、セミナー全日程に参加された方々の感想を紹介します。

小浜市口名田公民館　浜本由紀さん

今回、講師の方々や参加者とのグループワークに参加して、私の公民館での仕事の姿勢が、地域の方々が公民館や地域の課題についてどのように感じているのかよくわからずに、「例年通り」に地区運営、公民館運営が滞らないようにとしか考えられなくなってきていることに気付かされた。流れ作業のように事務仕事だけしていたら、地域の方々の声も聞くことが出来ず、もしかすると聞くチャンスを逃してきたのではないか、コミュニケーション不足だったのではないかと事例発表を聞いて感じた。今後は地域の方々との関わりのなかで、このセミナーでの学びを活かしたい。

また、3日間にわたるセミナーの司会は、月刊公民館に連載もある、お笑い芸人の「バーゲンセール」さんが担当して下さった。芸人さんに司会を担当していただくのは今回が初めての試みだったそうだが、国の制度の説明や公民館・地域運営について考えるという固くなりがちな内容を、楽しく学べるよう企画運営を工夫してくださった。このような姿勢からも学ぶことが多く、今後に活かしたいと感じた。

越前市南中山公民館　杉本之恵さん

全国公民館セミナーに参加する事になり、どんな研修なのだろうか、全国からどんな方が集まって来られるのだろうかとドキドキ、わくわくしながら当日を迎えました。

研修内容は、文部科学省の担当課長による「新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策」について、また東京大学 牧野篤教授からの「これからの公民館の可能性やありかた」についての講義がありました。さらに、人づくり、地域づくりの成功事例を聞くなど、3日間と言う限られた時間の中での講義とあって1秒も目・耳・脳が休む暇もなく働き続け、終わった頃にはあまりの情報量の多さに頭の中がパンパンになっていました。

しかし、どの講義も自分の心を揺さぶられ、考え方に刺激を受けるものばかりで、公民館主事として、今後どう社会教育を地域に広めて行くか責任の重さを感じたと同時に、いろいろな事にチャレンジして行こうと考えられる“前向きな自分”を手にして帰ってくることが出来ました。

◇ 編集の部 ◇

編集については、福井新聞社編集局メディア整理部長の川塚康弘氏と副部長山口剛氏を講師に迎え、普段目にする新聞を例に記事の構成内容や構成するにあたってのコツをお教えいただきました。

記事には、※５Ｗ１Ｈの６つの要素が含まれており、最近ではＳ「～すべき(Should)」を加えて意見を付することがあるそうです。起承転結で作られる日常の文章と大きく違い、真っ先に結論を書き、その後に説明を加える作りになっています。そのため推敲時に記事を短くする場合は後ろから削っていけば重要な結論を落とさずにすむそうです。

また、新聞のレイアウト（割付）は、主に次のように(青枠内参照)構成されており、事実をありのままに伝えることを第一に作られているとのことでした。

主見出し：記事の内容を端的に６～８字程度で表す。
袖見出し：10字～12字で主見出しを説明・補足する見出し
前文（リード）：本文の前段となり、ポイントを短くまとめたもの
本文：５Ｗ１Ｈを簡潔に分かりやすく

講義の後半は「まわしよみ新聞」というワークショップを行いました。

まずは、全国各地の地方紙に目を通し各々気になった記事を切り抜き、それらが「なぜ気になったのか、どこが気になったのか」をグループ内で紹介し合いました。地域の特色溢れる記事や、全国で話題になった事象を扱ったものなど様々な記事が紹介されていました。

次に切り抜いた記事をグループごとに組み合せ、オリジナル新聞を構成します。どの記事をトップ記事にするのか、どのような統一感を持たせるのか、どんな風にオリジナリティを出すかなど盛んに意見を交換しながら紙面を構成し、新聞紙名も自分達で考えました。そうして完成したオリジナル新聞は、各地の美味しい話題を集めたものや、防災に関する記事に特化したもの…など、どの新聞も誰が読んでも楽しめるものに仕上がっていました。

新聞社において、記事を作り伝えることをお仕事とされているお二人に、紙面作りを教えていただけたことは、広報紙のみならず、仕事全般、あるいは普段の生活の中でも活かせる場面が多くあるのではないでしょうか。

※５Ｗ１Ｈ…いつ（When）、どこで（Where）、だれが（Who）、何を（What）、なぜ（Why）、どのように（How）を指す。

◀講師　山口氏(左)と川塚氏

セミナーアンケートより

☺覚えて帰るポイントを明確に講義していただいたので、とても良かった。
☺実際にカメラを操作しながらの分かりやすい内容でした。
☺普段オートのみで使用していて、なぜ赤くなるか、青くなるか不明だったが、原因がわかった。使っていない機能がなんと多かったことか。
☺撮影モードメニューを変える事によりオートとは違う写真を写せるのは頭では分かってはいたが、その理由などを教わり、すごく理解できた。何だかとても良い写真が撮れる様な気持ちになっています。明日早速イベントがあるので色々とためしてみたい。
☺読み手のことをよくわかっている新聞社の方のお話なので、伝え方のコツなど、わかりやすかったです。
☺記事の書き方、レイアウトの仕方、タイトルの決め方など、今後の公民館だよりの作成にとても参考になった。
☺実際に新聞づくりをすることで講義内容をアウトプットすることができた。
☺新聞編集(まわし読み新聞)の作業は、皆で１つの作業を行い、とても楽しかったです。コミュニケーションを取るのにとっても良い方法だと思いました。今後とり入れたいです。

わがまちの『イ・チ・オ・シ！！』

剱岳かりんて祭 !!

あわら市剱岳公民館

あわら市の東部にひろがる県境の山々を背に、周囲を静かな里山に囲まれた地域に位置する剱岳(けんがく)公民館。目の前には男大迹王(おほとのおう)の伝説にゆかりの深い剱ヶ岳(567.8m）がそびえ、７町内・約 200 世帯を有する地区です。

ここでは毎年 11 月 23 日に「かりんて祭」が行われます。「かりんて」とは、刈り上げてという意味の方言で、稲を刈り取ったあとの、いわゆる収穫祭のことです。

◇ 始まりは？

その昔は役場が主体となって収穫を祝う「農民祭」が行われていましたが、昭和 57 年に公民館が建設された時に、そのこけらおとしとして第１回の「かりんて祭」を開催したのが始まりです。当時は、農産物の品評会や綱引き、子ども相撲大会などが行われていました。

◇ メインイベントは？

直径 2.5mの大鍋で豪快につくる「かりんて鍋」の無料ふるまいです。平成３年に第 10 回を記念して行われ、今日も続いています。投入する肉や味噌は約３０ｋｇ！野菜もたっぷりで、お代わりする人も大勢いるほど大好評です。

その他、手打ちそばの実演・販売や地元の採れたて野菜・山菜の販売もしています。また、あわら市の他地区の特産物もずらりと揃う「物産館」も人気です。

ステージではよさこいやジャズバンドのライブなど色々なアトラクションが繰り広げられ、館内では作品展が開催されています。

旅行専門雑誌「じゃらん」や県政広報、月刊Ｆｕ等に掲載し、またラジオやあわら市ホームページでも宣伝してきた結果、近年では県内外から 2,000～3,000 人の来場者で賑わう祭りとなっています。

◇ 課題は…？

実行委員は公民館職員の他、区長・農家組合・老人会・文化共栄会・生涯学習推進員等 25 名で構成されていますが、各団体の代表は毎年変わられる方も多いため、どうしても公民館が主体となっています。その為、企画がマンネリ化しやすいので、せめて 2～3 人は固定の実行委員さんがほしいと思っています。

また過疎化、少子化が進んでいて、担い手不足からくる運営の難しさが課題となっています。

◇ 今後の展望は？

周りの山々のふもとに広がる休耕田をコスモスやひまわり、彼岸花（根に毒があるため鳥獣対策にもなる）等で花いっぱいのインスタ映えするスポットにして、この剱岳地区をより多くの方に知ってもらい、祭りの活性化や発展につなげたいと思っています。

心も体もあったまる「かりんて祭」。今年も 11 月 23 日に開催されます。ぜひお出かけください！

「こうれんふくい」第 85 号

≪発行≫　福井県公民館連合会
〒918-8135　福井市下六条町１４－１
福井県生活学習館２階
TEL/FAX（0776）41-4077
E-mail　f-kouren@kore.mitene.or.jp

≪編集≫　広報紙委員会
福井市安居公民館　円光　淑美
大野市下庄公民館　木原　雄大
鯖江市吉川公民館　福嶋　幸代
福井県公民館連合会事務局